

委員会報告

2010～2011年度

No.1

第 2 回

委員会名 青少年育成・クエスト

委員長名 L平岩宏司

開催日時	2010年 8月 9日 月曜日 16時～18時					
開催場所	キャビネット事務局会議室					
	<input type="radio"/>	河合地区ガバナー	×	大石第一副地区ガバナー	×	阿久津第二副地区ガバナー
	<input type="radio"/>	L平岩宏司 委員長	×	L高島紀一 副委員長	<input type="radio"/>	L西村茂行 副委員長
	<input type="radio"/>	L和田俊一 副委員長	<input type="radio"/>	L小川晶子 副委員	×	L西山俊治 委員
	<input type="radio"/>	L石井邦博 委員	<input type="radio"/>	L島田芳子 委員	<input type="radio"/>	L西尾清光 委員
	<input type="radio"/>	L大久保昇 委員	<input type="radio"/>	L篠宮光央 委員	<input type="radio"/>	L原田純子 委員
	<input type="radio"/>	L山岡文夫 委員				
出席オブザーバー						
<input type="radio"/>	L奈須野慎二 副幹事	×	L久保田明雄 副幹事			
次 第	司会・進行		L小川晶子			
	1	ガバナーご挨拶	河合悦子ガバナー			
	2	委員長挨拶	L平岩宏司			
報告事項	1	キャビネット報告 L奈須野慎二 副幹事				
	2	複合地区青少年育成委員会報告 L平岩宏司				
議 題	審議経過事項の概要					
	1	ライオンズクエスト'公募型ワークショップ'の募集(資料 参照)				
	2	地区の各クラブ継続的青少年育成事業のアンケート				
	3	視覚障害者の児童、生徒を対象にした、作文コンクールの開催企画(資料 参照)				
	4	その他				
次回開催日時 場所	2010年 9月 9日 木曜日 13時30分～15時30分					
	キャビネット事務局会議室					

作成者

L 西尾清光

配布資料	1	第一回委員会報告
	2	青少年健全育成事業活動のアンケートのお願い
	3	Lions Clubs Internationalからの「ライオンズ奉仕における若い指導者アワード」通達
	4	2008年1月～12月 公募型ワークショップ開催実績(表)、同2009年、2010年
	5	東京都公立特別支援学校一覧
	6	2008年度 年次報告 JIYD(特別非営利活動法人青少年育成支援フォーラム)
	7	青少年育成・ライオンズクエスト委員会 役割分担(案)
議 題	審議経過事項の概要	
	1	<p>ガバナー挨拶の中で河合悦子ガバナーは四大交付金の3月申請について青少年育成支援クエストも考慮の範疇であるが、その前にライオンズメンバーへ青少年育成支援クエストに対する理解・啓蒙を行う必要があると強調された。</p> <p>本件について、委員会メンバーからは「ライオンズメンバーは実際の活動に参加は出来ないから金銭的支援しか出来ないの実態であるとの意見が出された。</p> <p>(委員会後の懇親会での席上、委員会メンバーでのクエストの実際現場を見学・体験する企画が話題となり、近々具体化計画がなされることになった)</p>
	2	<p>議案:ライオンズクエスト'公募型ワークショップ'の募集(資料 参照)</p> <p>については上記意見交換参照</p>
	3	<p>議案:地区の各クラブ継続的青少年育成事業のアンケート</p> <p>本件について、文中「キャビネットからも出来る限りの応援をさせていただきたい・・・」が具体的にはいかなる支援なのか問題点とされ討議された。結論として委員長がガバナーと相談の上修正案が委員会員に配信されることとなった。</p>
	4	<p>議案:視覚障害者の児童、生徒を対象にした、作文コンクールの開催企画(資料 参照)</p> <p>本件については配布資料「東京都公立特別支援学校一覧」の応募者年齢制限(11歳から13歳)から3校にアプローチする提案がなされ、了承された。具体的には先ず学校宛、書面で趣旨を述べ、面会アポイントを取る。その場合委員長同行者として葛飾はL島田芳子、久我山はL小川晶子、八王子はL原田純子が同行する。</p> <p>応募広告を学校以外、例えば毎日新聞社内にあるヘレンケラー関連事務所、などにアプローチする。</p> <p>点字から日本語訳は学校にお願いするとして、英訳は何処に頼み、その費用は誰が負担するのか。</p> <p>優秀作品には高額な賞金が贈られることになっているが、そのまま伝達するのか。</p> <p>応募作品が英訳して提出するに値するかどうかの問題を如何にするか。一案としては応募の宛先を委員会としてそこでスクリーニングする。その場合でも表彰は必要だし、その原資を如何にするか。</p> <p>等実行開始に際しての問題が提起された。</p>
	5	<p>その他</p> <p>本委員会は最低月一回開催することが委員長から提案され、了承された。</p> <p>次回は9月9日木曜日13:30～15:30於キャビネット事務局会議室が決定。</p> <p>12月9日木曜日16:00～18:00開催、その後忘年会開催が決定したが、その他の開催日は会議場の空きを見て委員長から委員に連絡されることとなった。</p>